

指導目標

イ 天然採卵（人工紫づけ法）による種苗生産

ロ 稚仔飼育及び小割式蓄養

ハ 産卵漁場造り

白イカは本県で高級魚種としてその価格もK当り1,000円を突破している。沿岸近海性で産卵期は常に内湾、入江に接近しどの地域でも7～8月頃は産卵期で豊富な卵のうを見ることが出来る。

しかもその採卵はだれにでも簡単にとれるが、問題はそれらの飼育蓄養方法にあるようだ。この試みは他府県でも色々検討され試験実施されているが完全な普及の体制にはほど遠いようである。

これには特殊な立地条件と場所並びに管理体制が必要で、県内では将来漁協を中心に育成する方法がこのましい。内海、内湾等風波の少ない場所を選び蓄養適地を選定すれば高級魚としてまた1年魚として短期養成魚種として新たな栽培漁業が検討されよう。今回は塩屋湾の開発利用として、羽地漁協大宜味支部を中心に調査、予備試験を行なっているが、これまでの調査では産卵期も同内湾で11月頃まで産卵可能ということがわかり、目下蓄養実施中で冬期における活餌の関係、成長歩留についても調査検討中でこれが成功すれば県内では「白イカの蓄養」も年2回の実施も可能ではないだろうか。なお水産試験場漁業研究室においても指定研究テーマとして実施されており今後十分連携の上調査研究し将来を期待したい。

(4) ヒトエグサの養殖

本県は周知の通り、藻類においても本土より「ハシリ」が魅力である。此の時期をふるに活用し、これまでの天然産の欠点を補ない、品質と生産量収を計りたい。水産試験場の試験結果、養殖技術はほぼ確立されているので

イ 種付時期及び漁場の選定指導

ロ 地域別、生育層と網の張り込み高さの調査指導

ハ 養殖漁場観測等本年度は養殖知識の習得の目標に適用化予備試験を実施（ヒビ網30枚程度）

伊江漁協婦人部を中心にその経過を確認し、次年度から本格的な課題として取りくみたい。

2. 漁船漁業関係について

(5) 底延縄漁具の改良（昭和49年、3月継続）漁具の合理化と効能調査

(6) フオリイカ延縄の調査研究（全 上）

(7) 省力機器の導入並びに調査研究（全 上）

水産試験場漁業研究室と連携のもと導入機器（巻揚機）の試験調査を実施し、グループ指導実施中である。

糸満漁業研究グループ、伊江島漁業研究グループ、与那国漁協、石垣漁協また青壮年育対事業のなかで先進地漁村の視察、研修を終え、また近代化装備、機器の適用化、操作取扱い等についても現地研修、講習会をもち各漁協、研究グループを中心に年次計画を進めている。